

群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード 1

請求番号	P9301	文書番号	153	年代	奈良時代・江戸時代
史料名	萬葉集 巻1～20				
形態	和本(木版)	複製	あり・なし	()	
備考	寄託の古文書(吉田允俊家文書)、全20冊(全20巻。1巻1冊) 同一史料は、寄贈の古文書(勝山敏子家文書 P8702)にもある				
史料概要	江戸時代に桐生新町(現桐生市本町を中心とする一帯)で機屋(はたや/織屋)を経営し、国学者・橋守部の門人兼後援者でもあった吉田家の寄託古文書。現存最古の歌集である「萬葉集」の版本。巻五には新元号「令和」の典拠となった序が収載されており、授業の導入にも用いやすいだろう(令和生まれの子どもが増える状況にも対応できる)。				
指導要領(内容)との関連	<小 6> (2) - ア - (イ) 大陸文化の摂取 <中 歴> B - (1) - ア - (エ) 仮名文字の成立 <高日探> A - (3) - ア - (ア) 古代の諸文化の形成				
活 用 例					
活用単元	天平文化 (文字(ひらがな)、句読点や濁点の変化・有無などから見る日本語(国語)の歴史)				
活用場面	・日本における文字の歴史、特にひらがなの誕生がわかる資料としての活用。				
活用方法	・史料と現代表記に改めた歌を提示し、それらと比較しながら万葉仮名を読み、ひらがなの誕生について理解する。(学習者の興味と関連する選択が望ましい。例えば小学生は身近な単語、中学生・高校生は相聞歌や上野国東歌など)。 ・他の資料(例えば『古今和歌集』における「君が代」の元歌や江戸期の絵入りの読本、画集、江戸期の子どもが使った学習書、明治期の教科書など)数点を順に見ながら、現代文と比較して共通点・相違点を確認し、ひらがなの成立、変体仮名や旧漢字・異体字、歴史的仮名遣いの使用、句読点や濁点の有無と、それらの歴史を学ぶ。				
予想される生徒児童の反応など	・現代文との相違に驚くとともに、外国語(漢字)に由来するひらがなの誕生、および日本語(国語)の歴史について理解を深めることができるであろう。また、日本で1500年ほど続いている文字使用の歴史の中での変化(政府による歴史的仮名遣いの禁止や常用の漢字、ひらがなの統一、ひらがたと漢字の混交、言文一致体の採用、読み書きのしやすい現代の文へ)など、学習者の特性に応じて『文字』に関する様々な事象へ学習を広げることができる。				

